

第3回 KCC 講演会実施レポート

テーマ：「たぐり出せ！地球環境の記憶 ～本質は細部に宿る～」

日時： 平成 27 年 2 月 22 日（日）13：00～16：00（開場 12：30）

会場： 高新文化ホール（高知新聞放送会館東館 7 階）

主催： 国立大学法人高知大学海洋コア総合研究センター
独立行政法人海洋研究開発機構高知コア研究所

後援： 高知県，高知市，高知市教育委員会，高知新聞社，NHK 高知放送局，KUTV テレビ高知，
RKC 高知放送，エフエム高知

趣旨： 国立大学法人高知大学海洋コア総合研究センターと独立行政法人海洋研究開発機構高知コア研究所は海洋から地球変動史および地球生命科学の研究を連携して推進しています。KCC 講演会は、海に慣れ親しむ地域の方々に、海をより深く理解していただく機会を提供する目的で、毎回異なるテーマを選び開催しています。

今回のテーマは「たぐり出せ！地球環境の記憶 ～本質は細部に宿る～」とし、海が記憶する地球環境変動についての 3 つの講演と、人間活動がもたらす地球環境変動についてパネルディスカッションを企画しました。

参加者：約 60 名

プログラム：

13：00 開会のご挨拶 高知大学 学長 脇口 宏
来賓ご挨拶 高知県林業振興・環境部 部長 大野 靖紀

13：15～13：30 イン트로ダクション「高知の海から探る環境の記憶」

高知大学 海洋コア総合研究センター センター長 徳山 英一
*高知県沖太平洋は、我々に海の恵をもたらす黒潮が流れる海です。一方、そこには南方からフィリピン海プレートが沈み込んでおり、巨大地震が繰り返す荒ぶる海でもあります。今回は、高知の海から探る環境の記憶の一例として、高知沖土佐藩の堆積物から、高知を襲った過去の巨大地震の爪痕について紹介しました。



13：30～14：10 講演 1 「サンゴに秘められた海洋酸性化の記憶」

海洋研究開発機構高知コア研究所 グループリーダー 石川 剛志
*最近、海洋の酸性化が生態系に与える影響が懸念されています。酸性化は過去の海洋でも起こっており、サンゴの殻に化学的情報として記憶されています。最先端の手法によりたぐり出された、掘削で得られたサンゴから過去の海洋酸性化の記憶について紹介しました。



